

合併市町村基本計画の執行状況について

- 1 道路新設改良事業
- 2 上水道事業統合整備
- 3 公共下水道整備事業
- 4 児童の健全環境の整備
- 5 中学校校舎整備事業
- 6 中学校体育館整備事業
- 7 生涯学習センター整備事業
- 8 中里原土地区画整理事業
- 9 農産物直売所等整備事業
- 10 農道整備事業
- 11 地域交流館整備事業

(終了した事業)

- 1 スマート IC 恒久設置事業
- 2 林道整備事業

※合併市町村基本計画記載順

1 道路新設改良事業

事業概要	都市間及び新市における地域間交通の円滑化や安全性・利便性を確保するため、市民が日常的に利用する幹線市道や生活道路などを整備する。
答申内容 平成23年8月	<p>市道13045号線・13047号線は通学路となっていることもあり、歩行者や自転車の安全を確保するためには、整備に併せて歩道の設置や車両の時間帯による通行規制が必要です。</p> <p>市道13127号線の整備については、市道13125号線と県道藤原宇都宮線を結ぶ路線であります。交通量や利便性を考慮し、他の路線に変更するなどの対応が必要です。</p> <p>市道10111号線及び市道13125号線については、生活道路としての利便性を確保するため、早急な整備が望まれます。</p>

●実施に向けた考え方				
旧町の継続事業を優先的に整備し、効果などを見極めながら推進する。				
●目標値及び目標値設定の考え方				
目標値	計画している4路線（市道10111号線、市道13125号線、市道13045号線・13047号線、市道13127号線）のうち、当面は、現在着手している2路線について優先的に実施していく。			
目標値設定の考え方	幹線道路及び生活道路の整備については、地域性にも配慮しながら、計画的に整備を進める。			
●平成23年度までの執行状況（平成24年3月31日見込）				
	年 度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業内容 (計画路線)	市道10111号線	改良工事 (一部未完了)		
	市道13125号線	用地取得	用地取得外	改良工事
	市道13045号線・ 市道13047号線 市道13127号線			用地取得, 改良工事(完了)
	予算額	202百万円	255百万円	225百万円
	累 計	303百万円	558百万円	783百万円
●平成24年度 of 取組み予定及び予算措置				
・市道13125号線用地取得			【当初予算額 6百万円】	

2 上水道事業統合整備

事業概要	災害等にも対応できる安定した給水体制の構築，また，効率的・効果的な水道経営を実現するため，簡易水道と飲料水供給施設の統合・一本化を図る。
答申内容 平成23年8月	<p>先の東日本大震災により，東北地方をはじめ全国各地でライフラインの被害が発生しました。このような中，災害時においても安定した給水が確保できるよう，東西連絡管については，早急に具体的な整備計画を明確にし，整備することが必要です。</p> <p>また，松風台団地の給水区域編入については，自治会・開発業者と十分な協議を行い，課題の整理や解決策の検討を図り，早期に編入することが望まれます。</p>

●実施に向けた考え方

合併後3年以内に，原則として宇都宮市の制度を基準に新しい計画を策定することとなり，上水道事業の統合整備についても平成21年度に拡張事業計画を策定する中で調査検討を行った。今後は事業計画に基づき統合整備を進める。

●目標値及び目標値設定の考え方

目標値	東西連絡管布設工事（120m），松風台団地の給水区域編入
目標値設定の考え方	上河内地域の整備計画に基づき，今後東西連絡管の整備を進めて行く。松風台団地については地元自治会との協議を図りながら給水区域編入を進めて行く。

●平成23年度までの執行状況（平成24年3月31日見込）

年 度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業内容	旧上河内地域における事業計画策定 配水管新設（中里原区画整理地内）	配水管新設（中里原区画整理地内） 今里送配水管更新工事 L=921m	今里送配水管更新工事 L=893m 関白増圧所 給水ユニット更新工事
予算額	区画整理：66百万円	区画整理：94百万円	63百万円
実績累計 (進捗率)	区画整理 2,800m (68.3%)	区画整理 4,135m (100%)	/

※平成22年度までは中里原区画整理内に対する上水道配水管新設累計及び進捗率

●平成24年度の取組み予定及び予算措置

【当初予算額 26百万円】

- ・中里町配水管布設替工事（DIP φ100mm）
- ・逆面町配水管更新工事（PP φ50mm）
- ・今里町市道舗装工事（県道上河内スマートインター線）

3 公共下水道整備事業

事業概要	生活排水の適切な処理による市民の快適な生活環境の確保や公共用水域の水質の保全を図るため、地域の実情に応じた汚水処理施設等を整備する。
答申内容 平成23年8月	公共下水道は、地域の生活環境の向上や自然環境の保全のためにも大変重要であることから、今後も引き続き計画的に整備することが必要です。 また、住みやすい住環境の整備のため、引き続き合併処理浄化槽設置の支援が望まれます。

●実施に向けた考え方			
合併協定書に基づき、平成21年3月に公共下水道全体計画の見直しを行い、併せて事業認可を変更した。今後は、変更した事業認可区域内の整備を進めるため、事業の優先度や効果等を精査した上で、今回計上した実施計画に基づき、計画的に進めていく。			
●目標値及び目標値設定の考え方			
目標値	事業認可区域面積：238.4ha（整備予定面積）		
目標値設定の考え方	事業認可区域面積は、事業認可において、整備を予定している区域面積であることから、目標値とする。 ただし、事業認可区域面積は事業認可の変更に伴い、区域面積の変更がある。		
●平成23年度までの執行状況（平成24年3月31日見込）			
	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業内容	・公共下水道污水管渠築造工事 ・特定環境保全公共下水道污水管渠築造工事	・公共下水道污水管渠築造工事 ・特定環境保全公共下水道污水管渠築造工事	・公共下水道污水管渠築造工事 ・特定環境保全公共下水道污水管渠築造工事
予算額	295百万円	234百万円	219百万円
実績累計	139.2ha	153.8ha	171.2ha
進捗率※	58.4%	64.5%	71.8%
※事業認可区域面積（238.4ha）に対する整備面積			
●平成24年度の取組み予定及び予算措置			
【当初予算額 166百万円】			
・公共下水道污水管渠築造工事（中里町ほか）			整備予定面積 2ha
・特定環境保全公共下水道污水管渠築造工事（今里町ほか）			整備予定面積 3ha

現時点では参考値

正式な数値は平成24年4月下旬に公表予定

4 児童の健全育成環境の整備

事業概要	放課後における児童の健全育成や子育て支援などにより、地域における児童の健全育成を図るため、拠点施設としての「子どもの家」を整備する。
答申内容 平成23年8月	<p>上河内東小学校区域の留守家庭児童会については、平成21年度に上河内小学校体育館内に移転されましたが、就学前の子どものためにも、一日も早く「子どもの家」として、空き教室や新たな建物に移行することが必要です。</p> <p>また、安心・安全な「子どもの家」を運営するためには、指導員の育成に努めるとともに、保護者からの意見を聞くことも必要です。</p>

●実施に向けた考え方

本市では、平成6年度から地域における乳幼児から小学生までの幅広い児童の健全育成を推進するための拠点施設として「子どもの家」事業を展開しており、既存の「留守家庭児童会」については、条件の整ったところから順次、「子どもの家」への移行を進めている。

こうした中、上河内地域においては、平成20年度に上河内中央小学校と上河内西小学校の留守家庭児童会を「子どもの家」へ移行したところであるが、上河内東小留守家庭児童会については、施設の老朽化や通所時における児童の安全性など、喫緊の課題に対応する必要があったことから、まず、平成21年7月に学校敷地内既存施設への移転を優先して行ったところである。同児童会の「子どもの家」への移行については、地域の意向等を踏まえながら、今後取り組んでいく。

また、本市では、指導員の資質の向上を図るため、新任者研修や専門研修等を計画的に実施しており、更なる充実を図るとともに、地域の運営組織とより緊密に連携しながら、放課後児童の健全育成に努めていく。

●目標値及び目標値設定の考え方

目標値	「子どもの家」の設置数（3カ所）
目標値設定の考え方	上河内地域における児童の健全育成の拠点施設として、すべての「留守家庭児童会」を「子どもの家」へ移行していく必要があることから、最終的な目標値を3カ所とする。

●平成23年度までの執行状況（平成24年3月31日見込）

年 度	平成19年度～平成22年度	平成23年度
事業内容	上河内中央小子どもの家開設 (平成20年度)	—
	上河内西小子どもの家開設 (平成20年度)	—
	上河内東小留守家庭児童会移転 (平成21年度学校内既存施設へ)	—
設置箇所数	2カ所	—

●平成24年度の取組み予定及び予算措置

--

5 中学校校舎整備事業

事業概要	地震発生時の生徒の安全確保や地域住民の応急避難場所の確保などを図るため、老朽度や耐震性などを踏まえながら、上河内中学校の校舎と体育施設の整備を進める。
答申内容 平成23年8月	中学校校舎の耐震化は、自然災害などから生徒の安全を確保する最優先事業であり、安心して快適な教育環境をつくるうえでも重要であるため、早急に整備を進めることが必要です。 なお、校舎の老朽化は進んでおり、自然災害等はいつ発生するかわからないため、耐震化を実施するまでの間は、日常的な点検整備も必要です。

●実施に向けた考え方

本市の学校校舎、体育館等整備事業の考え方は以下の通りです。

校舎の安全性の確保や機能復旧など、物理的な老朽化への対応、さらにバリアフリー化や耐震性を確保していくため、校舎の大規模改造を実施していく。

耐震化については、市耐震改修促進計画において平成27年度までに学校施設の耐震化を完了することとしている。

●目標値及び目標値設定の考え方

目標値	上河内中学校校舎の耐震化（対象校1校）
目標値設定の考え方	平成27年度までに学校施設全ての耐震化を実施

●平成23年度までの執行状況（平成24年3月31日見込）

年 度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業内容	上河内中学校特別教室棟耐震2次診断	—	—
予算額	4百万円	—	—

●平成24年度の実施予定及び予算措置

【予算額 5百万円】

上河内中学校 校舎耐震補強工事実施設計

6 中学校体育館整備事業

事業概要	地震発生時の生徒の安全確保や地域住民の応急避難場所の確保などを図るため、老朽度や耐震性などを踏まえながら、上河内中学校の校舎と体育施設の整備を進める。
答申内容 平成23年8月	中学校体育館については、地域の避難場所として大切な役割を果たす施設ではありますが、老朽化が進んでいることから、早急に耐震化を進めることが必要です。 また、自然災害等はいつ発生するかわからないため、耐震化を実施するまでの間は、日常的な点検整備も必要です。 平成22年度に完成した武道場は、体育授業や部活動を行ううえでも快適な施設であり、有効に活用されております。

●実施に向けた考え方

本市の体育館等整備事業の考え方は以下の通りです。

体育館は地震発生時に児童生徒等の安全を確保するとともに、地域住民の緊急的な避難場所としての役割を果たすことから、早急に耐震化を実施していく。

武道場は、体育の授業や部活動など教育上必要なものであるため、未設置の学校に設置し公平な教育環境を確保する。

耐震化については、市耐震改修促進計画において平成27年度までに学校施設の耐震化を完了することとしている。

●目標値及び目標値設定の考え方

目標値	上河内中学校体育館の耐震化（対象校1校） 上河内中学校武道場建設（対象校1校）
目標値設定の考え方	平成27年度までに学校施設全ての耐震化を実施 武道場が未設置の中学校に全校設置

●平成23年度までの執行状況（平成24年3月31日見込）

年 度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・上河内中学校体育館耐震2次診断 ・上河内中学校武道場新築実施設計 	<ul style="list-style-type: none"> ・上河内中学校武道場新築工事 	—
予算額	9百万円	147百万円	—

●平成24年度の取組み予定及び予算措置

--

7 生涯学習センター整備事業

事業概要	市民の多様な学習ニーズに対応するとともに、学んだことを個性と魅力ある地域づくり活動に生かすことのできる場・機会を提供するため、老朽度や耐震性などを踏まえながら、生涯学習センターを整備する。
答申内容 平成23年8月	<p>上河内生涯学習センターは、老朽化が進んでいるとともに、狭隘でバリアフリーの対応が不十分でありますので、利用者が安心して利用できるよう、早急に必要な機能及び規模等の整備方針を明確にし、整備する必要があります。</p> <p>整備に際しては、求められる機能など地域の意見を十分に反映させ、誰もが安全かつ快適に利用できる施設とすることが望まれます。</p>

●実施に向けた考え方

上河内生涯学習センター整備については、利用者が安全かつ快適に利用できるよう、老朽化の度合いなどを見極めながら、ひとづくりとまちづくりの一体化も見据え、施設に必要な機能、規模等について関係部局等と連携を図りながら検討していく。

●目標値及び目標値設定の考え方

目標値	利用者が安全かつ快適に利用できる生涯学習センターの整備
目標値設定の考え方	利用者の利便性・安全性及びひとづくりとまちづくりの一体化を見据えた生涯学習センターの整備を行う。

●平成23年度までの執行状況（平成24年3月31日見込）

年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業内容	ひとづくりとまちづくりの一体的な推進体制を全市的に整備していく方針の決定	方針を踏まえ、必要な機能及び規模等について関係部局と連携し検討	まちづくりと人づくりの一体的整備を図るため、「第2次宇都宮市地区行政推進計画」において、地域自治センターと生涯学習センターの一体的整備を位置づける
予算額	—	—	—
実績累計	—	—	—

●平成24年度の取組み予定及び予算措置

関係部局と連携し、生涯学習センター及び地域自治センターの一体的な整備に向けて、具体的な整備内容について検討

8 中里原土地区画整理事業

事業概要	安全で快適な魅力ある都市環境づくりや機能的な市街地の形成を図るため、中里原地区における土地区画整理事業を進める。
答申内容 平成23年8月	平成23年度の換地処分をもって事業は終了いたしますが、今後は地域と行政が連携して安全で安心なまちづくりを進めていく必要があります。

●実施に向けた考え方

宇都宮市の北部地区の一端を担う地区として公共施設整備を行うことで、宅地としての利用増進を図り、良好な環境を有するまちづくりを行うため事業を実施。

- ・事業期間：平成18年度～平成28年度（清算金分割徴収期間5年を含む）
- ・面積：約14.4ha
- ・換地処分公告：平成23年9月16日
- ・区画整理登記：平成23年10月12日
- ・保留地登記：平成23年12月6日
- ・清算金徴収交付：平成24年1月20日

土地区画整理事業は、平成23年度をもって完了。

●目標値及び目標値設定の考え方

目標値 事業費（697百万円）、造成工事（約9.6ha）

目標値設定の 考え方

中里原土地区画整理事業 事業計画における総事業費697百万円としており、今年度をもって事業が完了。

なお、特別会計における主要な工事である造成工事については、公共施設（道路・調整池・水路）整備面積を除く、宅地造成の面積である。

●平成23年度までの執行状況（平成24年3月31日見込）

年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業内容	一次造成工事(1.56ha) 水路築造工事(69.8m) 街区画地点測設業務委託 地質調査業務委託 保留地販売(8区画)	宅地造成工事(8.26ha) 擁壁工事(961㎡) 街区画地出来形確認測量 換地計画書等作成 保留地販売(8区画)	事業計画第3回変更認可 換地計画認可 換地処分 区画整理登記・保留地登記 清算金徴収・交付
予算額	140百万円	169百万円	30百万円
実績累計	事業費 498百万円	事業費 667百万円	事業費 697百万円
進捗率※	71.4%	95.7%	100.0%

※中里原土地区画整理事業特別会計事業費（697百万円）に対する事業費

●平成24年度取組み予定及び予算措置

【完了】

9 農産物直売所等整備事業

事業概要	豊かな農資源を生かした都市住民との交流および地域の活性化を促進するため、農産物直売所などを整備する。
答申内容 平成23年8月	地産地消の推進や地域産業の活性化、特に上河内地域の特色である「農」を活かした産業を推進するためにも、今後とも既存の直売所への支援を充実するとともに、上河内の農産物が多く消費者に提供できるような仕組みづくりの構築などが必要です。

●実施に向けた考え方

農村地域の活性化や地産地消を推進するうえで、農業者自らが農産物直売所を整備・運営することは大変有意義なことと考えている。本市においても、農業の付加価値を高め、農業所得の向上と安定性の確保のため、市食料・農業・農村基本計画において、大型直売所の整備を重点事業として掲げており、現在、JA うつのみやが主体となり南部地域に整備をする準備を進めている。

上河内地域においては、梵天の湯をはじめ数箇所の農産物直売所が整備・運営されているため、既存施設の利活用を促すとともに、事業の健全化や人材育成などの運営面における課題については、専門家による相談や実践的な訓練の場の提供など、個々の状況に応じた支援を行う。

●目標値及び目標値設定の考え方

目標値	—
目標値設定の考え方	—

●平成23年度までの執行状況（平成24年3月31日見込）

年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業内容	直売所等整備に係る検討	直売所等の整備基本計画策定支援	基本設計策定支援
予算額	5百万円	2.5百万円	—

●平成24年度の取組み予定及び予算措置

- JA うつのみやによる具体的な場所の選定に時間を要しており、整備に係る予算執行の時期が確定しないため、当初予算計上はなし（必要に応じて補正により予算措置を行う）。

10 農道整備事業

事業概要	農業生産性の向上や農産物流通の合理化，また，地域住民の社会生活環境の改善を図るため，農道の整備を進める。
答申内容 平成23年8月	農道整備事業については，上河内地域の主要な産業である農業をサポートするうえで大変重要な事業であることから，今後とも効率的かつ効果的な整備が必要です。 また，整備に際しては，旧土地改良区を含めた検討も必要です。

●実施に向けた考え方			
農道整備については，毎年度，一定の額を予算化し，全市域を計画的に整備しており，今後も順次整備していく。			
●目標値及び目標値設定の考え方			
目標値	—		
目標値設定の考え方	—		
●平成23年度までの執行状況（平成24年3月31日見込）			
	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業内容	農道舗装工事	農道舗装工事	農道舗装工事
予算額	21百万円	21百万円	20百万円
実績※	1,537.0m	1,264.0m	1,100.0m
※実績は各年度における整備延長			
●平成24年度の取組み予定及び予算措置			
			【当初予算額20百万円】
・ 県単	上田西芦沼1地区	：延長—220.0m	
	上田西芦沼2地区	：延長—350.0m	
・ 市直	山田川沿岸地区	：延長—250.0m	

1 1 地域交流館整備事業

事業概要	地域交流館のサービス向上および運営の円滑化を図るため、機能の充実・強化に向けた整備を行う。
答申内容 平成23年8月	<p>地域交流館は、上河内地域の情報発信地として重要な役割を担っておりますことから、都市間交流拠点として、交流人口の増加につながる足湯の設置の他、農業体験などを活かした交流ができる施設の整備拡充や地域ならではのおもてなしの提供が必要です。</p> <p>また、地域に密着した施設であるため、運営体制を含め、地域のお年寄り利用しやすい環境づくりに配慮することも望まれます。</p>

●実施に向けた考え方			
地域交流館は、農村地域を活性化するために、地域住民の交流の場や都市交流の施設として重要な拠点であることから、指定管理者と連携しながら、利用者ニーズに対応した施設の整備や交流事業の充実に努めていく。			
●目標値及び目標値設定の考え方			
目標値	—		
目標値設定の考え方	今後とも地域交流館整備のあり方の検討を進め、できるだけ目標の具体化を図っていく。		
●平成23年度までの執行状況（平成24年3月31日見込）			
年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体等が主体的に実施する交流事業を支援（農業・農村ふれあい交流事業補助金） ・地域団体等が取り組んでいる交流事業をイベント等でPR ・施設機能の維持修繕 ・類似施設の調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元組織による指定管理者制度の導入 ・利便性を図るための案内看板の設置 ・地域団体等が主体的に実施する交流事業を支援 ・施設の維持修繕 ・今後の整備・修繕のための施設・設備の劣化診断 ・施設整備のあり方検討（利用者ニーズ調査及び類似施設の調査） 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者や地域団体等が連携して実施する各種交流事業を支援 ・「ゆず園」を活用した新たな地域の魅力づくりに向け、指定管理者や地域団体と連携し、講演会や意見交換を実施 ・「自転車の駅」を設置 ・施設の維持修繕 ・施設整備のあり方検討（利用者ニーズ調査及び指定管理者との意見交換の実施）
予算額	12.1百万円	9.9百万円	25.3百万円
●平成24年度取組み予定及び予算措置			
<p style="text-align: right;">【当初予算額42.8百万円】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域団体等が主体的に実施する交流事業を支援 ・公共下水道の接続 ・施設の維持修繕（空調設備オーバーホール等） ・平成25年度からの指定管理者更新に向けた候補者の選定 ・平成24年度改定予定の「観光振興プラン」において、施設を活用した誘客促進策について検討する。 			

終了した事業

1 スマートIC恒久設置事業（平成22年度で整備完了）

●事業概要			
<p>高速道路の有効活用による交通利便性の向上や地域生活の充実，また，産業・観光の振興などによる地域経済の活性化を図るため，東北自動車道上河内サービスエリアにおけるスマートICを本格導入する。</p>			
●実施に向けた考え方			
<p>上り線接続道路（市道13370号線）を栃木県で，下り線接続道路（市道13371号線）を宇都宮市で整備し，平成22年度に工事が完了し，スマートICは開通した。</p>			
●目標値及び目標値設定の考え方			
目標値	道路新設改良（370m）事業費（194百万円）		
目標値設定の考え方	<p>市民や来訪者などの高速道路利用者の利便性向上により，交通の円滑化や，地域振興，流入人口の増加など地域経済の活性化を目指すため，スマートICを設置する。</p>		
●平成22年度までの進捗状況			
年 度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
事業内容	用地買収，改良工事	舗装工事	舗装工事
予算額	57百万円	33百万円	2百万円
累 計	159百万円	192百万円	194百万円
進捗率※1	82.4%	99.5%	100% 整備完了※2
<p>※1 進捗率＝総事業費194百万円に対する実績累計の金額の割合 ※2 平成22年12月18日供用開始</p>			

終了した事業

2 林道整備事業 (平成21年度で整備完了)

●事業概要			
森林資源の有効活用および自然環境の保全を図るため、林道の整備を進める。			
●実施に向けた考え方			
<p>林道の整備については毎年度、一定の額を予算化し、全市域を計画的に整備しており、今後も順次整備することを予定している。</p> <p>東北自動車道にかかる林道高架橋3橋について、安全性確保の観点から、事業の必要性は高く、関係機関と連携を図りながら、平成21年度の工事執行に向けて取り組む。</p> <p>高速道路高架橋補修事業に関しては、計画に沿って整備を進める。</p> <p>また、林道パトロールや現地調査を通して、維持補修や整備の必要性がある林道を整備していく。</p>			
●目標値及び目標値設定の考え方			
目標値	国庫補助事業にて計画されている林道矢白線総延長 L=967mの整備及び高速道路高架橋3橋の整備		
目標値設定の考え方	間伐等の森林施業を効率よく行うため、また、林道を通行する際の安全性の確保が必要であることから、目標値を上記のようにする。		
●平成21年度までの進捗状況			
年 度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・林道今里羽黒山線 草刈及び側溝清掃 L=400m 	<ul style="list-style-type: none"> ・林道今里羽黒山線 改良工事 L=60.0m ・林道矢白線 舗装工事 L=627.7m 	<ul style="list-style-type: none"> ・林道矢白線 舗装工事 L=339.8m ・高速道路高架橋3橋 (天ヶ沢橋・前久保橋・山口橋) 剥離防止工事執行
予算額	1 百万円	2 7 百万円	4 6 百万円
平成21年度で整備完了			

道路新設改良事業

●市道 1 3 0 4 5 号線・市道 1 3 0 4 7 号線改良工事（改良工事完了）



①市道 1 3 0 4 5 号線（平成 2 4 年 2 月末現在）



（平成 2 4 年 3 月末現在）



②市道 1 3 0 4 7 号線（平成 2 4 年 2 月末現在）



（平成 2 4 年 3 月末現在）

●市道 1 3 1 2 5 号線改良工事（改良工事中）



③北側・消防学校付近（平成 2 4 年 3 月末現在）



④南側・金田町付近（平成 2 4 年 3 月末現在）

上水道事業統合整備

⑤今里送配水管更新工事



中里原土地区画整理事業

⑥中里原地区における土地区画整理（平成23年度で整備完了）



中里原土地区画整理地内



中里原土地区画整理地内



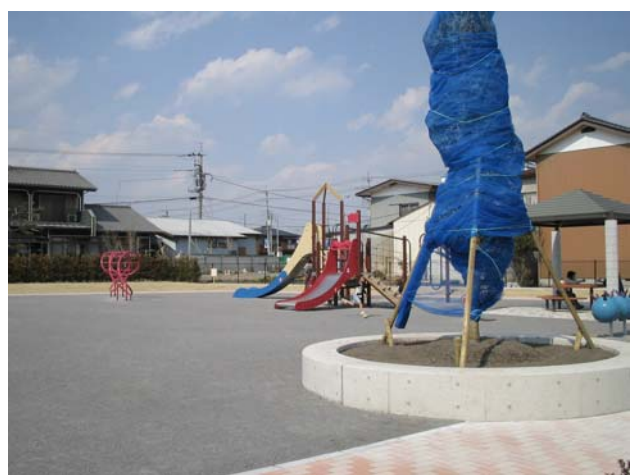
中里原ゆずっこ公園



中里原ゆずっこ公園（すべり台）



中里原ゆずっこ公園（健康遊具）



中里原なかよし公園

農道整備事業

●平成23年度における農道舗装工事



⑦ 芦沼町



⑧ 芦沼町



⑨ 上田町



⑩ 上田町



⑪ 上小倉町

前回の協議結果（各テーマにおける重点課題）

テーマ：子育て・教育

① 地域主催の行事への積極的参加

子どもたちとのふれあいが少ないため、各種行事への参加を呼びかけ、地域とのふれあいを大切にする必要がある。

② 各種技能者による次世代を担う人材の育成

団塊の世代の方は高い技術や能力を持った方が多い。そうした方々を発掘して地域の子どもたちの教育に活かすことができる。

③ スポーツを通じた子どもたちの絆づくり

体を通じ仲間づくりをした子どもたちは、将来も友情は薄れないと思われることから、地域の子どもたちのスポーツへの参加が必要である。

④ 各種行事の統一による活動の充実

地域にある行事を一まとまりにして横の連絡を取り合い、地域と学校と子どもたちが一緒になって行事を充実させる必要がある。

⑤ 乳幼児支援施設の充実

核家族化が進んでおり、子どもたちが家に帰っても親が家にいないことや、乳幼児を預かってくれる施設が少ないという現状があり、もう少し子育てを支援する必要がある。

テーマ：環境・景観・防災・上下水

① おいしい水の活用

地域の中に水を自由に飲めるような水道栓を設置し、そこで水が飲めるようになれば、地域の活性化にもつながる。

② 生活環境整備普及

上河内には非常にゴミが目立つので、もう少し環境整備が必要であり、教育面から見てもそういうことに関心を持たせることも必要である。

③ 耕作・山林放棄地の有効活用

他の地区ではゆずを加工したものが商品化されている。そうした地域ブランド化により、畑の放棄地を減らすことができる。

④ 自然を活かした景観活用交流の充実

西鬼怒川の堤防や休耕田を整備してサイクリングロードや家庭菜園として活用することで交流の増加が見込める。

⑤ ハザードマップの見直し

上河内地区のハザードマップに対する住民の理解が浸透していないため、ハザードマップの見直しや周知の徹底が必要である。

テーマ：健康・福祉

① 高齢者を活用したボランティア活動の充実

高齢者がボランティア活動を通じ、引きこもりにならないようにする必要がある。

② 温泉施設を利用した健康づくり

温泉施設の中で健康づくりを実施することで、温泉利用と健康づくりに対し、さらに需要が高めることができる。

③ 公共交通を充実し、生活圏の拡大

地域バスは路線に面した限られた方しか利用できないため、デマンドタクシーなどにより、高齢者が自分で買い物などにいくことができる。

④ 地元の新鮮な食材を活かした食育の拡大

上河内にはたいへんおいしい食材があり、地産物の販売や食事のできるところをつくることで強みを活かすことができる。

⑤ 老人会を活用した生きがいづくり

高齢者の方はいろんなノウハウを持っており、そうした方のノウハウを活かす場があれば、生きがいにもつながってくる。

【重点課題の変更箇所】

（子育て・教育）

②退職者の中から各種技能を発掘し、地域のために活かす ⇒ 各種技能者による次世代を担う人材の育成

③スポーツを通じて子どもたちの絆と地域のふれあいを図る ⇒ スポーツを通じた子どもたちの絆づくり

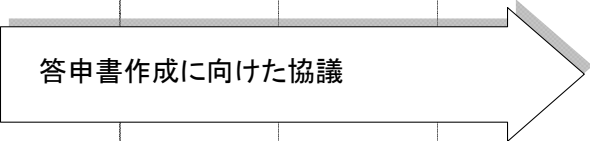
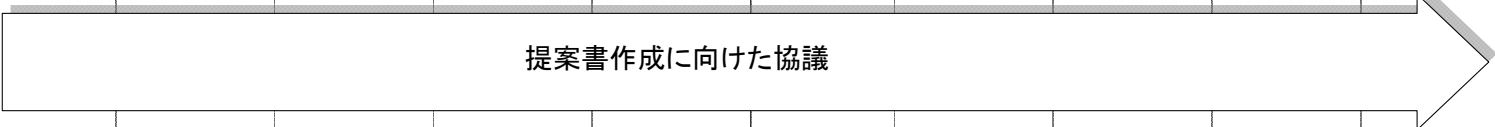
（環境・景観・防災・上下水）

③耕作放棄地の活用 ⇒ 耕作・山林放棄地の有効活用

提案書作成の進め方

テーマ	将来像 (重点課題を踏まえた地域の理想とする姿)	重点課題	方 策 (解決策)	目 標 (方策実現のため目標値)	実行プラン (目標実現に向けた取り組みとスケジュール)
子育て・教育	地域の人々が支え合い、ふれあいの輪が広がっている	<p>子どもたちとのふれあいが少ないため、各種行事への参加を呼びかけ、地域とのふれあいを大切にする必要がある。</p> <p>団塊の世代の方は高い技術や能力を持った方が多い。そうした方々を発掘して地域の子どもたちの教育に活かすことができる。</p> <p>体を通じ仲間づくりをした子どもたちは、将来も友情は薄れないと思われることから、地域の子どもたちのスポーツへの参加が必要である。</p> <p>地域にある行事を一まとまりにして横の連絡を取り合い、地域と学校と子どもたちが一緒になって行事を充実させる必要がある。</p> <p>核家族化が進んでおり、子どもたちが家に帰っても親が家にいないことや、乳幼児を預かってくれる施設が少ないという現状があり、もう少し子育てを支援する必要がある。</p>	<p>① 地域主催の行事への積極的参加</p> <p>② 各種技能者による次世代を担う人材の育成</p> <p>③ スポーツを通じた子どもたちの絆づくり</p> <p>④ 各種行事の統一による活動の充実</p> <p>⑤ 乳幼児支援施設の充実</p>		<p>3年後までに</p> <p>(考え方) 主にクロス分析の結果(A, D)に値するもの</p> <p>※クロス分析は平成23年度第7回上河内自治会議のグループ協議で実施済み</p>
環境・景観・防災・上下水	人と豊かな自然が調和し、安心した暮らしを支えている	<p>地域の中に水を自由に飲めるような水道栓を設置し、そこで水が飲めるようになれば、地域の活性化にもつながる。</p> <p>上河内には非常にゴミが目立つので、もう少し環境整備が必要であり、教育面から見てもそういうことに関心を持たせることも必要である。</p> <p>他の地区ではゆずを加工したものが商品化されている。そうした地域ブランド化により、畑の放棄地を減らすことができる。</p> <p>西鬼怒川の堤防や休耕田を整備してサイクリングロードや家庭菜園として活用することで交流の増加が見込める。</p> <p>上河内地区のハザードマップに対する住民の理解が浸透していないため、ハザードマップの見直しや周知の徹底が必要である。</p>	<p>① おいしい水の活用</p> <p>② 生活環境整備普及</p> <p>③ 耕作・山林放棄地の有効活用</p> <p>④ 自然を活かした景観活用交流の充実</p> <p>⑤ ハザードマップの見直し</p>		<p>5年後までに</p> <p>(考え方) クロス分析の結果(A, D)に値するもので後伸ばしできるもの、または(B, C)に値するもので早める必要があるもの</p>
健康・福祉	高齢者が生きがいを持ち、心豊かで元気に暮らしている	<p>高齢者がボランティア活動を通じ、引きこもりにならないようにする必要がある。</p> <p>温泉施設の中で健康づくりを実施することで、温泉利用と健康づくりに対し、さらに需要が高めることができる。</p> <p>地域バスは路線に面した限られた方しか利用できないため、デマンドタクシーなどにより、高齢者が自分で買い物などに行くことができる。</p> <p>上河内にはたいへんおいしい食材があり、地産物の販売や食事のできる場所をつくることで強みを活かすことができる。</p> <p>高齢者の方はいろんなノウハウを持っており、そうした方のノウハウを活かす場があれば、生きがいにもつながってくる。</p>	<p>① 高齢者を活用したボランティア活動の充実</p> <p>② 温泉施設を利用した健康づくり</p> <p>③ 公共交通を充実し、生活圏の拡大</p> <p>④ 地元の新鮮な食材を活かした食育の拡大</p> <p>⑤ 老人会を活用した生きがいづくり</p>		<p>10年後までに</p> <p>(考え方) 主にクロス分析の結果(B, C)に値するもの</p>

平成24年度宇都宮市上河内自治会議のスケジュール（案）

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会議開催日程		第1回上河内自治会議	第2回上河内自治会議	第3回上河内自治会議	第4回上河内自治会議		第5回上河内自治会議		第6回上河内自治会議		第7回上河内自治会議	第8回上河内自治会議	
答 申 （合併市町村基本計画の執行状況）	答申までの流れ	 <p>答申書作成に向けた協議</p>					答申書提出						
	会議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・諮問 ・執行状況の確認 ・答申内容についての協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・答申書(素案)について協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・答申書(案)について協議 ・答申書の確定 									
提 案 （地域のまちづくりに関する施策）	提案までの流れ	 <p>提案書作成に向けた協議</p>										提案書提出	
	会議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・実行プランの検討(グループ協議) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実行プランの検討(グループ協議) 		<ul style="list-style-type: none"> ・実行プランの決定 			<ul style="list-style-type: none"> ・提案書(素案)についての協議 		<ul style="list-style-type: none"> ・提案書(案)についての協議 ・提案書の確定 	